

京交山岳部報

〔第1724回例会〕

冬山入門

比良 (テント泊)

日時 2月4日(土)～5日(日)
集合 京都駅湖西線ホーム, AM7:30
コース 比良駅～八雲ヶ原キャンプ場～
武奈ヶ岳～八雲ヶ原キャンプ場
～比良駅
担当者 大倉寛治郎(☎3371)
備考 冬山の入門
楽しいテントで一夜を過ごそう

〔第1726回例会〕

ゲレンデと山スキーを楽しむ

湖北ブンゲン

日時 2月18日(土)～19日(日)
集合 壬生 6:00
コース 壬生-東IC-長浜IC-甲津
原-奥伊吹スキー場…ブンゲン
担当者 大槻 雅弘(☎722)
備考 18日はゲレンデにて足ならし
スキー。一泊テント泊りして翌
日ブンゲンに登ります。

〔第1725回例会〕

冬山登山大会

八丁平周辺

日時 2月11日(祝)～12日(日)
集合 みぶ 9時
コース 鞍馬街道-花背-大悲山口-寺谷
京都市キャンプセンター幕営
担当者 岡田 茂久(☎2-3282)
備考 冬山装備一式、テント泊の用意
をしてきてください。冬の星座
も楽しみたいと思います。

〔第1727回例会〕

北山の峠道

祖父谷峠から石仏峠

日時 2月26日(日) AM 8:15
集合 三条京阪、京都バス乗場
8:26発
コース 三条京阪-岩屋橋-祖父谷峠…
石仏峠…岩屋橋
担当者 津田 実(☎789)
備考 詳細は参加者と相談

— 今月の集会

インドア「山の文学」

岡田 茂久 —

2月9日(木)

PM6:30

厚生会館4F大教室

— 企画運営委員会

2月21日(火)

PM6:00

厚生会館4F大教室



余 暇 新 時 代

岡 田 茂 久

「余暇促進基本法」。近く経済企画庁が制定しようとしている法律で、それには“連続休暇取得の義務”が盛り込まれている。

世界中から日本人は働き過ぎであるとの批判を受けるようになってからもう大分久しい。これを受けて完全週休2日や長期連続休暇を先取り採用する企業がふえ、各労組でも賃上げに加え労働時間の短縮をスローガンに取り上げている。

最近では当局においても隔週2日連休が試行され、我々ら登山を趣味とする者もおかげで、山行きのできる日が増えたのは大変嬉しいことである。しかし隔週2日連休が試行されていると言うものの、人数の少ない職場の部員などでは、連休を利用した山行き当日が出勤日に当たると、かえって休暇の取得が制限されたような状態になっている。これも近々に閉庁方式が取り入れられれば改善されることと期待しているが、それでも連続休暇となるとまだまだ取りにくく、我々が海外遠征などを計画すること等は夢のように程遠い話である。

ところが今度は休暇の連続取得義務を法律で決めてしまおうということである。なんとも良い世の中になってきたもので、日本てなんて良い国なんだろうと思ってしまう。

なるほど有給休暇は働く者の権利で、その理由の如何にかかわらず自由に取得できるものとされている。しかしまだまだ現実には休むことは罪悪、働くことが美徳という風潮の中、我々もまた仕事が第一で家庭が第二、山は第三であると常々話してきた。「余暇促進基本法」が制定されたとしてもまず社会の余暇という意味についての認識を改めることから始めなければならない。まして罰則のない法律など絵に書いた餅である。もっとも2、3日休んでも職場が気になって仕方ない我等中年の意識の改造がまず一番の問題かも知れないが。

しかし、この法律の主旨とするところは、仕事はそこそこにしてくださいということでは無く、仕事もきっちりとしてください、そして余暇として家庭サービスと、趣味も楽しんで下さいということであろう。

休みが増えて我々は山行きが沢山できるようになるのはそれで嬉しいのだが、休みを作るだけでなくその余暇を十分楽しめる施設の充実も望みたいものだ。それに余暇を消化するにも最近はたいそうな費用を必要とする。有り難たついでに余暇充当手当の支給というようなもので、法律で面倒みていただけるようにして頂ければ非常に有り難いのですがねえ。そうでなければカウチポテト族と大型粗大ゴミを作る事だけになりはしないかと余計な心配もしてしまう。

まあ、きたるべき余暇新時代に備えいまから禁煙して煙代を節約し、スナック通いも控えて貯金でもしておかなくては。

[第1712回例会] 龍シリーズ-9

龍宮山△Ⅲ398.8と龍王山△Ⅲ462登頂報告

津 田 実

あちら、こちらと尋ね歩いて、やっと辿りついた龍宮山山麓、林道入口は鎖ざされていた。

止むなく付近に車を駐めて歩き出す。付近は別荘地らしい。

林道入口から少しで道は二分していたが私達は迷はず直進、林道終点から右手の踏跡を辿る。径は尾根の腹を捲いて続いている。大分歩いたが地形が変わらない。こんなに長い尾根はないと不思議に思い地図と睨めっこ。どうも目的の山を取り違へたらしい。

大槻さんと、三橋さんが相談している間に小生は、尾根を登って小広い台地上のところへ出て三角点はないかと付近を探したが仲々見付からず、ウロ、ウロしていると「帰へて来い」との声、もう少し突込みたかったが仕方なく引返す。

林道入口付近まで戻ったとき、右手の家から出て来られた男の人に挨拶をしたところ、「何処へ行かれました」「ええ竜宮山へ行った心算が当て外れで帰へて来ました」と答えると、此の付近は私の持ち山だとのこと。

そこで、いろいろ伺うと林道がすぐ2分していたのを我々は直進したが右へ行かなければならぬことが判った。

更に大槻さんが詳細な話を聞いてくださったところ、その方は京都の長岡の住人とのことであった。縁とは不思議なもの。

今度は勇躍？ 足どりを軽く右側の林道を進む、話のとおり廃道に近かったが、美濃のヤブで蝶子を捲かれた我々は茂も熊笹もナンノソノ、どんどん登って稜線を上へ、上へと進んで行くと、小生が先程行った付近と同じような地形で、熊笹のあいだに大木が散見できる処へ出た。

この付近と前方に注意して歩いていると、アッターと云う声がした。

見慣れた紅白のボールが木々の間に眩然と立ちはだかっていた。ヤッター。 実は、前にも敗退しているので、嗚呼、今日もアカン、カッターと、無念に思っていたのが歩く姿となって先程の人の情を誘ったのかも知れない。恥かしいことだ。

でも、山神様の御神酒を頂戴すると、そこが生来、愚鈍の性、忽ち陽気になって大騒ぎ。

先程、歩いた尾根を、と探したが結局、一つ尾根向こうであり往路を下山、御教導戴いた方にお礼を、と訪ねたが御留守のため、お礼を紙面にしたためて竜宮山と別れた。

北摂の低山とは云え、矢張り、山は山、充分の心がまえが必要と痛感した。やはり、5万図より2.5万図がほしかった山である。

続いて登った龍王山は、住宅地が山すそまで突き上げた外れから踏跡を辿り、ほぼ平坦な尾根径を突き進んだ処に三角点はあった。結構2山を登ると愛宏山以上登りごたえのある山であった。

参加者 津田 実、三橋 勉、大槻雅弘、原田か津子

[第1716回例会]

錫杖ヶ岳

岡田茂久

伊賀路は険しい。いくつもの峠と山裾を巡る隘路、それだけに間道としては格好で、往古から多くの人々に利用されてきた。古くは壬申の乱で大海人王子が吉野から大津へ攻め上った路も、徳川家康が本能寺の変で堺から逃げ帰った路もこの伊賀路であった。しかるべくして忍者の里でもあった。かつて蒸気機関車全盛時代には、伊賀路の難所である加太越えをD51の重連がドラフトの音を力強く谷間に轟かせていたものである。今はもう阪奈道路が山裾をトンネルで縦貫し、白い大動脈の帯にかつての難所を忍ぶよすがもない。

錫杖ヶ岳はこの加太越えの東南にあり、旧東海道の宿場町関から峨峨としたその尖峰をかいま見ると、我々の登高欲をくすぐる山である。古くから知られた山でもあり、谷文兆は“日本山名図会”に「百丈ヶ岳」として画いている。高頭式は“日本山嶽志”に「錫杖ヶ岳〔雀頭山〕2235尺、安濃、鈴鹿の二郡にまたがり、下垣内より二十五町にして其山頂に達する」と紹介している。

思うに雀頭山とは山頂の岩峰の形状からきたものようであり、あたかも山名呼称の交換のモデルをみるようで興がある。

我々は錫杖ヶ岳山頂から少し離れた稜線にある三角点ピーク経由の縦走をして加太向井に下り、取りつき地点の集落までは県道を帰ることになった。取り付きの集落名は“福德”なんともお目出たい名である。しかしお目出たついでに集落の奥へ林道を詰め過ぎ、早くも縦走の計画を諦めて往復に計画変更になってしまった。林道はまだ続くが大きな穴のあいた橋の手前広場に駐車する。

次の林道の分岐は右にとたがあまり利用されないのか草深い。林道終点から山道に入るが現在地が掴みにくい場所だ。いつか踏跡程度となった道は植林の中を直上している。支尾根にのると再び道らしくなったが、主稜までは急登に次ぐ急登で登り付いた所は509mの独標だった。

2.5万地図にある破線路とは取り付きの谷を1本違えたようである。

独標からは574mの三角点ピークと、錫杖ヶ本峰633mが三角点ピークから右に直角の位置

で、深いキレットを挟んで聳びえているのが望める。初冬とはいえ木の間からもれる日差しは柔らかく、伊勢平野はかすみ伊勢湾に行き交う舟は雲間に漂うかに見えるのどかな日だ。主稜線には踏跡はあるもののあまり歩かれておらず、落ち葉を厚く敷き詰めた踏跡はときにブッシュに遮られるが、我々にとってはなんとも好ましいルートであった。錫杖ヶ岳頂上はドーム状に盛り上がりなるほど雀の頭のように見えなくもない。

三角点ピークは何の変哲も無い尾根のこぶである。ここからは支尾根とのジャンクションを幾度か直角に折れるが、ブッシュの中に踏跡が不明瞭の場所もあり読図力より山感が試される。キレットを急降下すると植林の中の静かなコルで、下垣内からの路が合している。下垣内からの登山者はかなりあるらしく、キレットからの上りは路ははっきりしているものの、有り難くも結構な急登である。登り付いた先にもう一本下垣内からの路が合しているのが地図にある路のようだ。

山頂直下で路はドームの左へ回り込み頂上に至るが、路を外れ尾根どうしの踏跡をたどると岩場を攀り頂上の雀の頭に飛び出す。岩に囲まれ小さな祠があり、2,3人も座れば一杯になる頂上だが”眺望絶佳”何も言うこと無し。

さすが師走の風は冷たいものの岩陰では小春日和に眠気が誘われ降りるのが嫌になる。ようやく腰をあげたが帰りも三角点ピークまでは登りと同じ時間を要した。標高のわりには登りがいのある山である。

時間記録

京都7:40-福徳10:00-車止め10:15…509標高11:05…△574m11:30…頂上12:30~13:55…△574m14:55…509独標15:15…車止め15:55-京都19:00

参加者 横井、渡辺明、方山、古市、山口、三橋、大槻、岡田（8名）

[第1718回例会]

納山祭・還歴登山・龍シリーズ納山

龍王山・龍ヶ尾山

大槻雅弘

舞台の幕は早く上り、演じるのは遅くまでがいいのか。壬生を出発して、舞台が出来上ったのは午後6時。本年の主演は善男善女4名。村、渡辺、横井、笈田の各氏が揃った。

今夜の演出をする為に待っていたのが雪。四囲は我々を炎の中に浮き立たせ、主演は飲んで唄って、宴は夜を忘れ時は過ぎた。

明けて18日。幻想的な夜明、ガスの中に池の水と雪。なんと自然は素晴らしい舞台を作ってくれるのか、ふと思い出したあの何んとも言えぬブルーの、東山魁夷の絵の世界に入るような錯覚。

龍歳の最後を飾るにふさわしい還歴の4名の方を龍王山で祝うことが出来た。500mたらずの山なのに、それを忘れさせる様な情景を与えてくれる雪の演出に、亀岡の町はまだ雲海の下に眠むっ

ていた。

万歳を三唱して、赤の羽毛ベストをメンナベチャンに着てもらった時は、いつもよりなお一層若いナベチャンを見た。こうも若いのか、村さん、横井さん、笈田さん、みんなとても歳を感じない。イヤ、感じさせないというほうが正しいであろう。その若さは、1ピッチで車止まで下り立った。

続いて登った龍歳最後の山、龍ヶ尾山も一気一気。納山祭、還歴、龍シリーズを祝って一際高く万歳三唱をして、今年の京交の山行の幕は下りた。

ー 辰歳シリーズを一年間計画して、曲りなりにもなんとかやってきたが、当初の計画を、天候、国体等で度々変更した。また、残念ながら4月、6月は中止になったことが惜まれるが、延115人の参加者を得たことは一つのシリーズとしては成功だったと思っている。今年の伊藤先輩の年賀に「もっと続けたら」と添書ももらってますので、何かの形で続けられればと思っております。

辰は、十二支中たった一つの仮空の動物で龍というものと同一とされている。幸い、全国に龍のつく山名はまだまだたくさんあるので、なんとか龍頭蛇尾にならないようにと思っていますが、龍の形は頭は蛇と中国の本草綱目という書に述べてあるらしいが今年は巳(蛇)歳であり、龍や蛇を混ぜて登ったりしてはと思っています。

64. 1. 3記

[コース・タイム]

12月17日(土)

14:00壬生集合-14:30出発(車)-越畑、テントサイト到着、設営-18:00納山祭

12月18日(日)

8:45テント場出発(林道)-8:55登山道取付-9:35△龍王山頂上、セレモニー-10:25出発-10:55登山道取付-11:10テント場到着-11:30出発(車)-12:05林道(昼食)-13:05出発-13:50△龍ヶ尾山頂上着 14:15出発-14:40林道-14:50発(車)-15:50壬生到着-16:45解散

山行参加者

坂井、奥村、村、渡辺(朋子)、横井、笈田、辻、岡田、鷺見、大槻(雅)、吉田、中山、三橋、方山、大木、井戸 16名

(田村-18日早朝帰宅・近藤、山村-17日夜帰宅)

◎山村、村、横井、渡辺、笈田、津田、中山、若山、岡本(孝)各氏から、寸志及びお酒等多数差入れをいただきましたので、誌上を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

記念品賛同者(順不同)

近藤 馨、奥村 弘信、山村 敏郎、津田 実、河村 清、石田 和男、坂井 久光
大伴 初代、中村 維源、石田 弘、山田 富男、松岡伊太郎、上田 隆、森下 村重
伊藤 潤治、山下 周道、畑 照人、田中 定勝、辻 久男、今井勇一郎、岡田 茂久
鷺見 敏一、大槻 雅弘、田中 忠久、和田 良一、楠 とし子、大槻 貞従、伊豆蔵 清

猪飼 康夫、上村 次男、角田 敏昭、大沢 泰、井上 一夫、井戸 澄夫、広瀬光太郎
松井 郁夫、岡本 孝、若山 裕孝、吉田 武、大倉寛次郎、蛭子野俊雄、古市 昌造
岡本 義弘、沢井 佳三、篠田 勝美、三浦 貞義、方山 宗子、木下 嘉造、平野 裕
長谷川雅也、宮川 勇、原田加津子、田村 政弘、出海洋三、武田喜久郎、三橋 勉
上島 和彦・弘子、川原 傳治、山元 誠一、中山 忠之、大木 秀実
渡辺 智生、竹田 勉

還歴登山と竜シリーズ登山の御礼

横 井 襄 二

1988年(昭和63年)の納山祭には、私達、辰(竜)年生れの還歴登山も併せて行って頂き、又多くの人々から御厚志にあずかり非常に高価なダウンベストを頂戴し、誠に有難うございました。

部報の関係上、御礼が遅くなったこととお詫びすると共に重ねて御礼申しあげます。

昨年(辰)年には竜シリーズの登山を企画して頂き、竜年生れの私達は非常に恵まれました。年頭の竜ヶ岳から10山程の竜の山を登り、掉尾を飾る納山祭には、竜の山のしめくりに応しい竜尾山に登り、憎い程の企画に嬉しく感動しました。

この間色々の人々と合い、山の顔にふれ、又四季ともごもの自然に接し、ほんとうに充実した山行の一年でした。

雪に始まり雪に終わったのもこのシリーズの特徴で、自然の見事な贈りものでもありました。

次の辰(竜)年は正に21世紀の始まりで、2000年の輝かしい年です。この年も皆様方と共に、どこかの竜の山で汗を流したく思っていますのでよろしく願いいたします。

どうも有難うございました。

渡辺 朋子。村 宗松。笈田 昭。横井 襄二。

[第1720回例会] 初登山

東山三十六峰

三 橋 勉

新年初登山は平成元年1月8日という記念すべき日となり、あの活動写真の名セリフで有名な東山三十六峰をめざす事となった。

あいにくの雨降りであったが、16名の参加があり、深草駅から稻荷山の南サイドを登る。

途中で雨もやんできて、着ているカップをぬぐため休憩していると、津田、原田両氏が追いかけてきた。朱塗りの鳥居をくぐって、一ノ峰に参拝し、引き返して三角点のある最高峰に登る。239.3mの稻荷山(第36峰)山頂で神酒をいただく。

そこから北へ向って尾根道をくだると山科への分岐点に出た。なおも北の竹ヤブの中を進む。このあたりの左上部が、光明峰（第35峰）であろうという話をしながら行くと、鉄条網（孝明天皇陵）ぞいの道となりやがて明るく開けたところが東山テニスクラブの前で展望がよく向い側にゴルフ場、右下に山科の町がよくみえた。滑り石街道を京都側に下り民家が現われる所で右折し、山ぞいのユリ道を北東に進む。あと20分で山頂であると奥村リーダーに言われて、ガンバッテ登りきると、石のさくに囲まれた豊国廟のある山頂に到着した。阿弥陀ヶ峰（第31峰）である。

こゝで本日のメインであるオゼンザイをいただく。約1時間の昼食後、この山頂の裏側をまわり込むようにして五条通のトンネル付近に出る。地下道で五条通をくぐって清閑寺に向う。六条天皇陵の前を通り石段を登ると清閑寺山門の横から中に入ると、歌の中山で有名なこのお寺も応仁の乱に焼失し、現在は十一面千手観世音を安置する本堂が残っている。

庭に「要石」と呼ばれ、京都の街が扇状に眺望できる場所があった。

清閑寺山（第30峰）は清水山へ登る途中にあり三角点242.5mの続きの尾根である。広い清水山（第29峰）は、南の方に昔の軍隊の見はり台（約16m）の鉄塔がある。

そこから下り分岐点を西方向に登り返すとピークがあり、霊山（第27峰）であろうと思われる地点であった。元の道に戻り、なおも北へ進むとあの東山ドライブウェイの山頂である將軍塚に到着。この山が長楽寺山（第23峰）230mで東山36峰としてはめずらしい独立峰である。

こゝから北に知恩院の奥山、華頂山（第21峰）を通り、本日の最後の粟田山（第20峰）を通り、その中腹に京都三庚申の一つ尊勝院（青蓮院別院）がある。その右下の粟田神社で集結し、この先はシリーズ第2弾として例会山行を約し、解散した。

（参加者）

奥村、他1名、岡田、鷺見F1、田中、辻、渡辺、方山、井戸F2、大木、竹田、津田、三橋、荒田、原田（以上18名）

〔コースタイム〕—————●

深草9：30…尾根10：13～20…一ノ峰10：30…稻荷山10：45～55～山科分岐
11：06…東山テニスクラブ11：21…豊国廟（昼食）12：05～13：05…清閑寺
13：32～40…清閑寺山13：53…清水山14：02～15…將軍塚14：40～15：05
…粟田神社15：25

例会報告

例会№	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記事
1716	錫杖ヶ岳	12月11日		岡田 茂久	横井、渡辺(朋) 方山、古市、山口、三橋、大槻	別稿詳報
1717	妙見山	12月10日		大倉寛治郎	次号報告	
1718	納山祭 龍王山・ 龍ヶ尾山	12月17日 ～18日		岡田 茂久 大槻 雅弘	坂井、奥村、村 渡辺(朋)、横井、笈田、辻、 鷺見、吉田、中山、三橋、方山、大木、井戸 田村、近藤、山村	別稿詳報
1719	甘南備山	12月20日		伊藤 潤治	中止しました。	
1720	初登山 東山36峰	1月 8日		奥村 弘信 三橋 勉	岡田、鷺見 F1 田中、辻、渡辺(朋)、方山、 井戸 F2、大木、竹田、津田、 荒田、原田	別稿詳報

雑 報

＊ 12月の集会

出席者(本局)大槻雅弘、大木、井戸、井上

(OB)伊藤、奥村、坂井、横井

(高速)岡田、大倉 (梅津)吉田

インドア 「冬の星座」 三橋 勉 (8日厚生会館大教室) 例会報告、その他

＊ 1989年新年会

11日 場所 あみ船 小島

出席者(本局)三浦、方山、大槻(雅)、三橋、原田、鷺見、楠、大木、伊豆蔵、大槻(貞)

井戸、大塚、山元

(高速)岡田、大倉 (梅津)吉田 (錦林)田中

(洛西)武田、竹井、井口、谷口

(OB)近藤、山村、坂井、奥村、津田、横井、渡辺(朋)、辻、今井(以上30名)

＝ 新年会 出席者の新年の抱負

- 大塚 去年入部したばかりです。よろしくお願いします。
- 大倉 去年は京都国体の一員として活動した。平成となり、心を新たにして、京交山岳部のため尽力したい。40周年記念出版では、丹後の山々に登り直す。
- 坂井 今年も変わらず、一等三角点に登り、日本百名山を片付けたい。
- 田中 国体も終わり、今年は40周年でもあり、京交山岳部の立て直しを考える年だと思う。
- 山村 体力の許す限り山に登り、大正・昭和・平成の時代を生きのびたい。
- 近藤 1年1山の公約を借りたままになっている。今年はその借りを返して、来年の新年会でお目にかかりたい。
- 渡辺
(朋子) 去年は還歴登山で、赤いベストを頂戴し、又国体の手伝いもさせてもらい、ありがとうございました。次の国体もがんばります。
- 大槻
(雅) 今年40周年記念登山で、北緯40°の山に登ります。又、記念誌として京都の山217山の執筆をスタートしたところです。皆さんの協力をお願いしたい。
- 井口 40周年記念誌では、亀岡の山を一山書きたい。(千歳山)
- 方山 去年は国体ばかりでしたが、今年40周年でよい山に連れていってもらえると楽しみです。
- 三浦 一年一山をなんとか登りたい。
- 三橋 2月には冬の八丁平に行きますので参加して下さい。一昨年は巻機山、昨年は平ヶ岳・会津駒ヶ岳に登り、今年は何処にするか??、40周年記念登山もあります。
- 原田 例会にひとつでも多く参加したい。
- 今井 今年もきばって山へお伴したい。
- 津田 昨年の新年会で、ぼちぼち引退といったが、体力のつづくかぎり現役でいたい。1月18日に歯を取らねばならない。ハーサンはやめて、?にしたい。
- 横井
楠 還歴登山ありがとう。今年月1回以上山に行きたい。
- 楠 去年は一山しか登れなかった。今年新年会が一山とならないようがんばりたい。
- 吉田 今年40周年ということで、森吉山、岩手山など北緯40°の山に登る。又、自分なりに、それなりの山を目指したい。
- 大槻
(貞)
武田 今年多くの山に登ろうと夢で見ている。
- 武田 去年は丹波の山にかなり登った。自分なりの新しい山行を考えたい。
- 奥村 楽しく愉快にをモットーにしたい。40周年で丹後の山を集中的に登りたい。

- 鷺 見 ここ2年程、新年の抱負でウソばかりついている。今年は女房と冬の北海道へ行く。
40周年記念誌もがんばりたい。又、皆さんには、京都府岳連の中核としての京交山岳部を自覚してほしい。
- 竹 井 去年はジャンダルムを征はした。平成という名の山があれば教えてほしい。
- 谷 口 日本百名山を登っていききたい。40周年記念誌も執筆したい。
- 井 戸 去年の抱負であった富士山は登ったが、荒島岳は登れなかった。今年はぜひ登りたい。
又、40周年記念誌の山々も登る。
- 辻 一山でも多く登りたいのでよろしく。
- 大 木 今年は例会に月1回以上参加したい。
- 伊豆蔵 山岳部に入って1年半ほどで、山のことはよくわからないので、皆さんに連れていって
もらいたい。
- 山 元 今年には月に一山程度登りたい。40周年記念誌の山も登りたい。
- 岡 田 昨年の抱負で、マイペースの山行をと言ったが、悪い意味のマイペースではいけない。
今年には40周年であり、北緯40°の山を登ります。45周年には北緯45°の世界の山(ロッキー、アルプス、蒙古等)を目指したい。又、腹をひっこめたい。

※ 40周年記念出版委員からのお願い

本年、京交山岳部創部40周年を迎えるに当たって、記念山行等の企画も進んでおりますが、記念行事の1つとして、京都府下500m以上の山217山の本を出版する計画があります。現在40周年記念出版委員会を作り、対象とする山の選定等の作業を進め、原稿の作成にとりかかっています。

部員の皆様1人1人が1山ずつ原稿を書いて頂けたら、それだけで200山近くにもなります。ぜひ、協力をお願いします。

なお、詳細につきましては、委員長又は事務局までお問い合わせ下さい。

40周年記念出版委員会

委員長	田中 忠久
事務局	三橋 勉
	井戸 澄夫

❖ 他山岳会の会報（受贈分）

11月号 青嶺（京都山の会）

12月号 北山（北山クラブ）、跋涉譜（大阪低山跋涉会）、近畿山行（近畿山行会）、
木（好好会）、比良山岳（京都比良山岳会）、山友（京都山友会）、趣味の登山
（京都趣味登山会）、京都山岳（京都山岳会）、わっぱ（大垣山岳協会）、青嶺
（京都山の会）

1月号 北山（北山クラブ）、近畿山行（近畿山行会）、比良山岳（京都比良山岳会）、
趣味の登山（京都趣味登山会）、京都山岳（京都山岳会）、一等三角点（近畿山岳
愛好会）

その他 岐阜県錫杖岳 鳥帽子岩前衛フェース・左方カンテ遭難報告（関西岩峰会）

❖ 部費受領

（錦林）田中 忠久、生田 敏雄、徳野 治

（高速）広瀬 烈 （梅津）吉田 武、徳田 真三

❖ 新入部員

本局 氏名 政 道代

住所 右京区梅ヶ畑田向ノ地町

＊ 部報担当からのお願い

部員の皆様には、既にご存知かと思いますが、「88年7月号」から部報の印刷所を変更しております。それに伴いまして、部報製作費が大幅に上昇しました。部報担当者（井戸、井上、山元）としましては、製作費の低減を目指した紙面作りに取り組んでいます。

そこで、皆様にも山行の報告については、原則として「1山行・1報告・本文原稿（コースタイム・参加者名を含めて）1300字以内」として頂くよう再度お願いします。これはタイトルを含めて部報の1ページ分になります。今後とも良い山行の報告をどしどしお寄せ頂きますようお願いいたします。

御 婚 礼
御 引 越



地方宅配
運搬専用

ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター・京都市山科区西野山階町12-12

TEL (075) 581-3101
祝 い さ い わ い

本社・京都市東山区大和大路通四条下ル
TEL (075) 541-2345(代)

お知らせ

御得意様各位

平素は、格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

昭和63年6月より、新住所にて営業致します。旧倍に増して、御来店の程心よりお待ちしております。

記

新住所 〒600 京都市下京区不明門通り六条下る西側
(烏丸通りより1筋東の通り)
TEL 075-351-6598(代)

㈱ 小林地 図 専門店

SINCE 1980

THE LOG CABIN CO.

H.HASEGAWA'S SHOP

FOR ALPINISTS

KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西 島 輝 雄

左・川端丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442

山とスキー用具専門店

株式会社 **ロッジ** 京都店



京都市中京区御池通高倉西入高宮町
(千代田生命京都御池ビル1F)
☎ (075) 255-0595

テニス

サイクル (自転車)

も取り扱っています。

帆 布・濾 布
テント・シート
雨 合 羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

愛されるスポーツ店

京菱運動具店

本 店 下京区大宮通松原上ル
TEL (801)1331
十条店 南区竹田街道十条上ル東側
TEL (691)8041
山科店 山科区音羽野田町1番
西友ストア-山科店
TEL (592)9770 内線 228

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports
ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアウェア・US放出品
ポースカウト用品

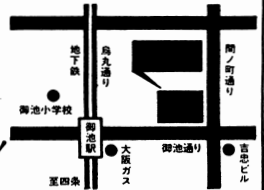
Mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(258)-0548
●営業時間 AM10:00~PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コニシ

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
☎(075)222-0363

●技術とサービスの創る!印刷

株式会社

北斗プリント社

タイプ・写植オフセット印刷 ●電子写真印刷

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)
TEL(075)791-6125(代)
FAX(075)791-7290

平成元年2月1日

京都市中京区壬生坊城町48
京都市交通局内

京交山岳部